



みんなの水泳……日々徒然

Glasgow 2015 IPC Swimming World Championships (IPC 水泳世界選手権グラスゴー大会) ～2020東京に向けて…徒然～

はじめに

今回は、パラ競技に特有のクラス分けについて、特に「ステイタス」をとりあげ、お伝えしました。

今回は、2015年7月13日～19日まで、グラスゴー（英国）で開催されたIPC 水泳世界選手権グラスゴー大会について、見聞きたこと感じたことをお伝えしたいと思います。

2016リオパラの前年の世界選手権…

北京からロンドンの4年間には、世界選手権は1度の開催でしたが、ロンドンからリオの4年間については、世界選手権は2度開催されました。

ロンドンパラ翌年の2013年にカナダのモントリオールで、そして今回、リオの前年に英国のグラスゴーで開催となりました。リオに向けて、ベテラン勢も踏ん張るなか、若手の台頭もあり、見ごたえのあるレースが多かったように思います。



今回の会場について、世界選手権には少し小さいかなという声を聞きました。確かに動線は少し狭い印象でしたが、招集所についても仮設で設置されていました。50m種目の招集所は近くにトイレがありましたが、100m以上の種目の招集所周辺にはトイレはなく、少し不便だったようです。通常、世界選手権や欧州選手権では、招集所横に車いすでもアクセスできる仮設トイレが設置されることが多いのですが、今回はそのためのスペースは取れそうなのに、設置されていませんでした。



会場入り口にはプールのトリックアートが描かれていました。ロンドンパラでも会場内の壁やドアにマスコットが描かれているなど、遊び心が見え隠れするアレンジがありました。こういった遊び心で選手や観客を和ませてくれるのは嬉しいことです。2020年の東京でも何か遊び心のあることができるかといふと強く思いました。トリックアート以外にも、決勝セッション前には、プール内のスクリーンに観客を映し、アナウンサーが観客と会話するなど、来場人を楽しませる工夫がいくつも見られました。スクリーンは会場内に2カ所あり、一方は記録等を映しだし、もう一方はレースや会場の様子などがカメラが捉えたものを映してました。時には、Facebookやtwitterに寄せられたメッセージ等を紹介することもありました。「会場にいる人、いない人、みんなで盛り上げて行こう！」そんな印象でした。

エコ? 不便?…リザルトはwebで…

クラス分けの結果を反映した暫定スタートリストは通常は大会前の公式練習期間に配布されて各国チームが確認する、という手順に使用されますが、今回は、この暫定スタートリストについて、大会のホームページで確認してください、とのことで、紙での配布がありませんでした。

毎日のスタートリストは各国に数部ずつ配布されます。選手20人の日本チームには4部でしたので、選手5人に1部の計算でしょうか。

またリザルトについても、受付横に掲示はありますが、紙ベースでの配布はなく、大会のホームページで確認してくださいとのことでした。大会側がWi-Fiを設置しており、確かにエコですし運営側の時間も経費も節減できますが、初めてのことで少し驚きました。

エントリー変更や補欠の招集での扱いなどが厳格化…メディアとの関連…



プールの横には選手を追ってTVカメラが移動するためのレールが敷かれていました。

今回の大会は英国でのTV放映が組まれていました。毎日、予選は録画でしたが、決勝はライブ中継されていました。その関係からだと思いますが、エントリー変更や補欠の招集での扱いなどが非常に厳格だったと感じました。

確かに、TV放映となると、数ヶ月前からスケジュールを調整するでしょうか、予選の有無を含めて、変更は一大事ですね。

監督会議でも、「決勝の招集所には補欠2名も必ず行くこと」とアナウンスがありました。

どうせ補欠だから、と、招集に行かないような場合には、「無断の棄権」とみなされて罰金となったようです。日本チームは、補欠の場合にも準備をして招集に行きましたが、他国では罰金を言い渡されたところもあるようでした。

一般の競泳とは異なり、IPC大会では、棄権する場合には医学的な理由を所定の用紙に記入して、当該レースの30分前までに提出しなければならないことになっています（緊急の場合を除く）。医学的理由記載には、医者または理学療法士の署名が必要です。

この手続きを怠って、出場しないような結果になると、50ユーロの罰金が課せられ、罰金の支払いがなされないうちは、その選手は他の種目への出場が許されないことになっています。ですので、出場種目については、エントリーの段階から、綿密な計画が必要になります。

クラス分け…結果をしっかりと確認しよう

国際大会で選手がクラス分けされる際には、クラス分けテストの当日と、競技観戦の日に結果が掲示されますが、特に競技観戦の日には、必ず掲示を確認する必要があります。

今回はセッションの15分後までに掲示されるという申し合わせ事項がありましたので、競技観戦にあたる日には、待ち構えるようにして掲示を確認に行きました。

掲示された結果にプロテストする場合には、「15分以内に所定の用紙に理由等を記載して150ユーロとともに提出」しなければなりません。

選手団としては、いつでも掲示されるのか確認し、用紙は事前に入手して、必要事項で書ける場所は予め記入しておき、150ユーロはポケットに持ち、と入念な準備と行動が必要です。

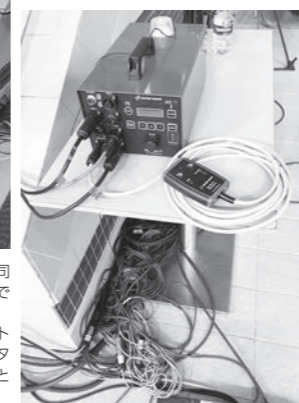
スターターはバスガイドさんのように??…

日本ではスターターがスタートの合図をする器具はピストルのような形状であるのが一般的ですが、他国では写真のようなバスガイドのマイクのような形状のものが多いように思います。

この写真の方にお話を聞いたところ、頭部にインカムマイクを付けたりしないで済むので、こちらの方がやりやすいとお話でした。



日本で見ると随分と形状が違いますね。司会者のようなデスクで、小さな装置を両手で持ってスタートをコールします。本体そのものもそう大きくなく、コンパクトです。セッションごとに男子種目のスターターと女子種目のスターターが配置されることが多いようです。



あれれ?…予選はひと組ってどうということ?

通常は、予選、と聞くと、2-3組あるように思いますが、今回は予選がひと組だけ、ということが数回ありました。

というのも、予選は10レーン使用して行われたからです（ただし視覚障がいS11は予選も8レーンのみ使用）。

なんだか変な感じでしたが、時間短縮には効果大だと思います。決勝では10レーンプールのうち、両端を除く8レーンでレースが行われました。

大会を盛り上げるアナウンサーたちは… パラリンピアン!

今回は、大会中のアナウンスをパラリンピアンが担当していました。常時、3名のアナウンサーで運営されていましたが、そのうち実況中継のようなパートは2名の英国パラリンピアンが担当していました。



日本ではタイムを読み上げたりするイメージの強い「通告」ですが、国際大会では音楽とともに「レースの実況」のようなアナウンスの場合があります。

Giles Long (左)
職業：映像制作会社 Lexicon Decoder ProductionのCEO (最高経営責任者)。元パラリンピックS8の水泳選手 (シドニーパラ S8 100mバタフライの金メダリスト)。2010年からコメンテーターを初め、2012年のロンドンパラリンピックでチャンネル4のコメンテーターを務めた。水泳選手を引退するころから、コメンテーターの仕事をするようになり、引退後も続けることとなった。制作会社ではクラス分けの説明ビデオを作成、ロンドンパラリンピックで起用された。

Paul Noble (右)
元パラリンピックS10の水泳選手。パラリンピック出場 5回 (1984-2000)。1992年バルセロナパラではSB9 100m平泳ぎで銀メダル獲得選手として最後に出場した大会は2002年のコモンウェルスゲーム。初めての国際大会でのコメンテーターの仕事は2004年のアテネパラリンピック (BBC)。現在は会計士を職業とし、IPCのコメンテーターの仕事も受けている。

泳ぐときには右回り? 左回り?



以前にも紹介したように、国によって、コース内を泳ぐときの周り方が異なります。日本は右側通行が基本ですが、反対の左側通行の国も少なくありません。練習等で体に染みついていまして、一緒に泳ぐと混乱して危険です。

写真のようにコースごとに表示を設けて、右回りと左回りを分けていました（実際には…時には表示と違う状態になっていることもあり…なんだかなあという状態もありましたが…）。

リオに向けて…

どの国も、この後はまずはリオの枠取りに向けてのチャレンジが続きます。日本も、IPCライセンス登録した選手が、IPC公認大会で少しでもいい記録で泳ぎ、ランキングをひとつでも上げ、ひとつでも多くの枠を獲得したいところです。

そのためには、参加できるIPC公認大会をどう増やしていくか等も課題となります。次回はそのあたりもお伝えしたいと思います。